

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人設楽作己の上告趣意一は、憲法三十八条三項違反をいうが、所論Aの供述調書謄本の記載は、所論被告人の自白の補強証拠として十分なものと認められるから、所論は前提を欠き、同上告趣意二は、事実誤認の主張であつて、いずれも刑訴法四〇五条の上告理由にあたらない。また、記録を調べても、同法四十一条を適用すべきものとは認められない。

よつて、同法四一四条、三八六条一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和四六年五月三十一日

最高裁判所第三小法廷

| | | | | |
|--------|---|---|---|---|
| 裁判長裁判官 | 下 | 村 | 三 | 郎 |
| 裁判官 | 田 | 中 | 二 | 郎 |
| 裁判官 | 松 | 本 | 正 | 雄 |
| 裁判官 | 関 | 根 | 小 | 郷 |